

令和元年度第2回瀬戸市生活支援・介護予防サービス提供主体等協議体会議 議事録

開催日時	令和2年2月28日（金）午後1時30分から午後3時10分まで
参加者	委員：別紙委員名簿のとおり 事務局：高齢者福祉課長（司会）、高齢者福祉課長補佐、地域支援係長 担当主事（3名）
場所	瀬戸市役所東庁舎4階 大会議室
内容	<p>1 開会</p> <ul style="list-style-type: none"> 資料の確認 <p>2 議事</p> <p>(1) 令和元年度第1回協議体の内容確認について</p> <p>【資料1】「令和元年第1回度瀬戸市生活支援・介護予防サービス提供主体等協議体会議 議事録」を基に事務局から説明。</p> <p>〈説明内容〉</p> <p>第1回会議では、生活支援コーディネーターから、移動や担い手等が課題として取り上げられているという報告があったが、これらは独立しておらず、「つながり」というキーワードが共通していると意見をいただいた。</p> <p>そして、「つながり」に関係する課題について委員の皆様から意見をいただいた。</p> <p>(2) 今年度の課題</p> <p>事務局から説明。</p> <p>〈説明内容〉</p> <p>今年度の課題について、前回の協議結果から委員長・副委員長・事務局で協議した結果「つながりを生む高齢者施策」となった。しかし、新たなつながりを生み出すのではなく、今まであるつながりを絶やすことなく、住み慣れた地域で安心して暮らし続けるための施策を検討していくために、「つながりを継続する高齢者施策～住み慣れた地域で安心して暮らし続けるために～」に変更した。以上の内容を踏まえ、つながりを継続する高齢者施策について検討いただきたい。</p> <p>〈質疑応答〉</p> <p>[瀬戸市シルバー人材センター] から質問。</p> <ul style="list-style-type: none"> 現在、活躍できるシルバー会員が80代となっており、リタイア後の社会的孤立を避けるために、社会とのつながりが重要となる。 <p>[委員長]</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和元年度の課題は「つながりを継続する高齢者施策～住み慣れた地域で安心して暮らし続けるために」としてよろしいか。 <p>⇒異議なしとして決定。</p>

(3) 生活支援コーディネーターの報告等

- ・ 会議について、【補足資料】「地域ケア会議の種別と構成」を基に、事務局から説明。

〈説明内容〉

本会議は、新たな仕組みづくりに向けた政策提言の場として位置付けている。今年度より、地域の個別の課題を会議に反映できるように、地域の個別課題から地域課題の検討を行い、地域課題から市全体の課題の解決に向けて検討していく。

- ・ 生活支援コーディネーターからの活動報告。

【資料2】を基に、第2層生活支援コーディネーターから活動報告。

〈報告内容〉

①ふたば

買い物に行くことが困難な住民向けに行われていた訪問販売の提供場所や販売業者への働きかけを地域住民と協働し行っている。解決に向けて、団体との関係づくりや地域力との協働が必要。

②しなの

地域住民の声から買い物ツアーを開催したが、参加者が集まらなかった。公共交通機関が高齢者の生活に直結していることが課題として明らかになった。地域の資源を生かしながら、地域包括支援センターとの情報提供・共有を行っていく。

③中央東

買い物ツアーのニーズはあるが、参加者が集まらず、地区の選定や周知の強化が必要。また、担い手がおらず、地域サロンの住民の担い手問題や、独居高齢者見守りの問題等、地域のつながりが必要。

【資料3】を基に、第1層生活支援コーディネーターから活動報告。

〈報告内容〉

陶原連区の地域支えあい会議において、認知症の理解と居場所の必要性が課題として取り上げられた。認知症サポーターの普及や居場所の必要性の周知、地域資源の活用が必要。居場所については、「よりどころプロジェクト」を推進しており、地域の支えあい・助け合いの関係づくりに効果が期待できる。

現在4か所で買い物ツアーが実施されたが、現時点での困り感より、将来への不安を感じられる方が多かった。

元気高齢者サポーター養成講座では、地域の担い手の養成を行い、地域で活躍する人の紹介や活動場所を紹介することで、担い手を地域へとつなげている。(今年度は中止)

今年度4月～1月の生活支援コーディネーターの相談内容分類による

と、前回から引き続き、居場所や移動、買い物の相談が多くあげられている。

- ・ 「地域ケア会議」について基幹型地域包括支援センターから補足説明。
【資料3】を基に、基幹型地域包括支援センターから報告。

〈説明内容〉

独居高齢者の生活しづらさは根が深い問題となっており、独居高齢者でかつ認知症の人は孤立しやすく、発見時には重症化しているケースが多い。独居で孤立してしまっている方の地域での見守りやその理解、そして、支援する体制を整備することが必要になる。

(4) 政策提言の検討

[委員長]

〈別紙〉「提言書」を基に、政策提言の内容について説明。

- ・ 提言書を基に、加筆・修正がある場合はご意見をいただきたい。

[瀬戸市シルバー人材センター]

- ・ 基幹型地域包括支援センターの話の中で報告があった孤立は、独居の孤立のみとして受け止めてよいか。

[基幹型地域包括支援センター]

- ・ 独居のみではなく、子供世帯がいても孤立しているケース等もある。

[瀬戸市シルバー人材センター]

- ・ 引きこもりの人は瀬戸市内でどの程度いるか。

[基幹型地域包括支援センター]

- ・ 正式な数値は把握していない。しかし、8050 や 7040 の問題等引きこもりのケースはどこの包括も抱えている問題である。

[瀬戸地域福祉を考える会まごころ]

- ・ この提言内容がいかに地域で実施されていくかが重要。
- ・ 年に1回の地域ケア会議で、どの程度の地域の課題を把握できているのか。
- ・ 第1層生活支援コーディネーターの役割は市全域を見ることではないか。また、第2層については、現在3圏域のみにしか設置されていないが、全域で実施すべきではないか。

[高齢者福祉課]

- ・ 第2層コーディネーターには、なるべく早期に全7地区に配置していきたいと考えている。
- ・ 本会議は、政策提言で終わらず、第8期瀬戸市高齢者福祉計画・介護保険事業計画など、政策に反映していけるように取り組んでいく。

[委員長]

- ・ 今後も委員には、提言の内容が実行されているか、引き続き意見をいただ

く。

[瀬戸地域福祉を考える会まごころ]

- ・ 今あるつながりを継続するだけでなく、生み出すことも大切になるのではないか。

[瀬戸市社会福祉協議会]

- ・ 委員の方からも社協への要望があれば言っていただけるとありがたい。

[委員長]

- ・ その他意見はよろしいか。

⇒ 提言書を委員長から高齢者福祉課課長へ渡す。

委員からの意見を基に、委員長と事務局で提言書の内容を協議する。

3 その他

- ・ 事務局より来年度の会議についての案内。

〈説明内容〉

現在年2回の実施をしているが、検討時間が十分に取れていないことや第8期瀬戸市高齢者福祉計画・介護保険事業計画への反映を行うために、来年度から年に3回の実施を検討している。

また、生活支援コーディネーターの活動についても、委員の意見を活動に反映をさせることができるようにしていきたいと考えている。政策提言の進捗状況も随時報告していく。

4 閉会